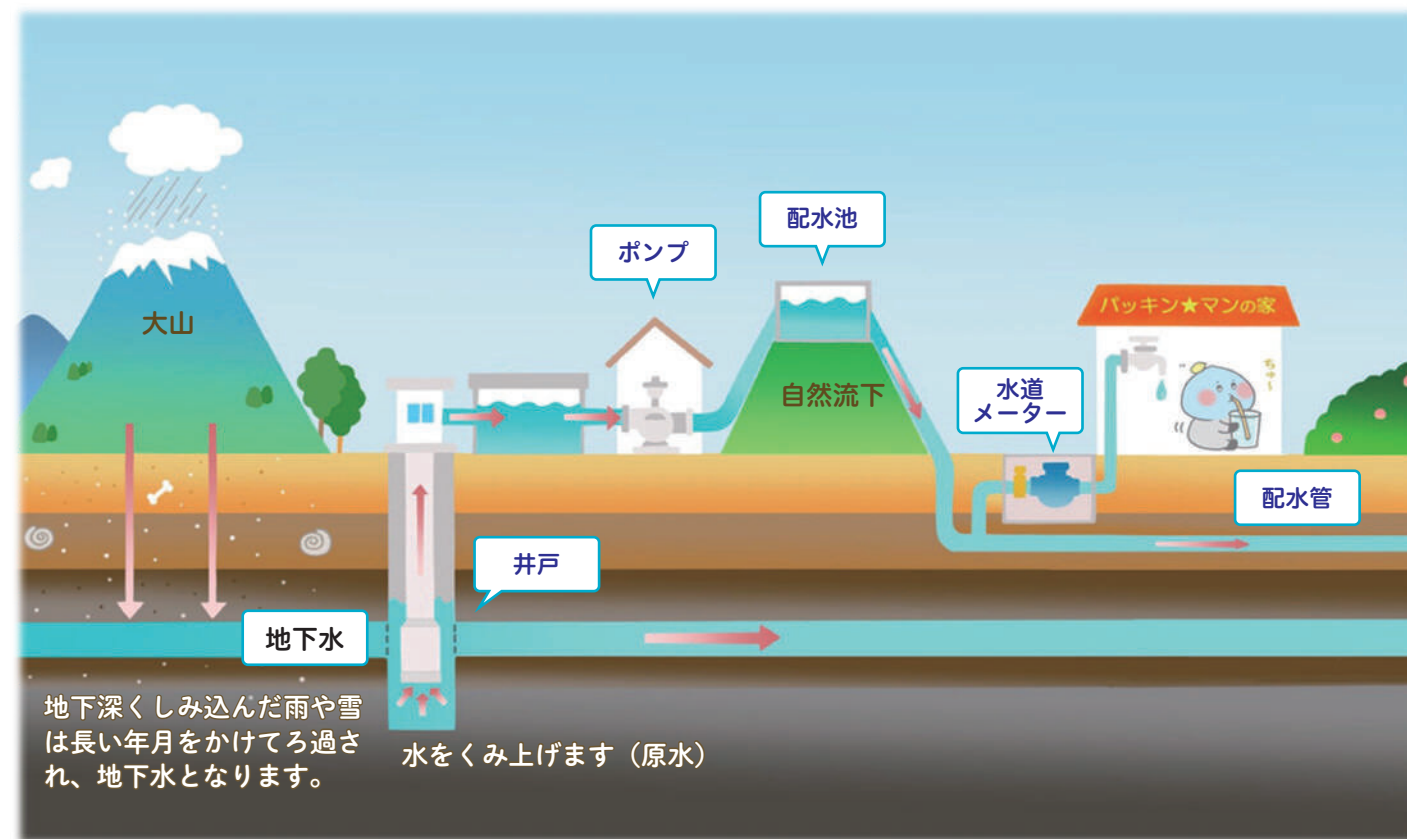


水道水が届くまで

米子の水道水は、地下深くからくみ上げた地下水を原水として利用しています。井戸でくみ上げられた原水は、いったん調整池に貯えられた後、塩素消毒を経て浄水となり、配水池へと送られます。そこから配水管を通してみなさんの元へ届けられます（＝自然流下方式）。



いつでも安心して水道水を使えるように

米子の水道では、コンピューター（情報処理、遠方監視制御システム）を使用し、水道施設の集中監視制御により水資源の有効利用に努めています。さらにムダのないよう水量をコントロールしながら円滑に水を送る指令を出しています。（24時間体制）

しっかり見守るのだ！



安全な水道水ができるまで

水道水の水質は水道法で定められた水質基準を満たしていなければなりません。水質基準項目は52項目あり、その基準値は、生涯にわたり水を飲んでも人の健康に影響が生じないものと設定されています。

さらに水質基準を補完する項目として26項目の水質管理目標設定項目が設定されています。



上下水道局では、水源から配水池、蛇口までの各段階で採水地点を設定し、水質検査をしています。水源地の井戸や配水池、市内の蛇口で採水した水は、その性質に応じて必要な検査項目を毎日又は毎月実施しており、皆さんにお届けする水道水の安全性を確保しています。

災害に強い水道をめざして

昨今、自然災害が頻発しており、水道施設の耐震化などが求められています。
本市では、平成12年に発生した鳥取県西部地震や令和6年能登半島地震などの災害の経験を踏まえ、水道施設の耐震化や応急給水対策など、災害に強い水道の取り組みを進めています。

水道施設の耐震化



老朽化した水道管を耐震管に取替える取り組みを進めています。また、配水池や調整池などの施設についても順次耐震化を図っています。

連絡管の整備



給水区域内（米子市・境港市・日吉津村）に9つの配水区を分けて運用しており、非常時における水の相互融通のための連絡管を整備し、常時、安定的に供給できるよう、広域的なバックアップを図っています。

応急給水対策

給水区域内において、災害発生時に応急給水が可能な施設をけています。



（日吉津水源地や福井には上記看板が設置してあります。）

応急給水箇所

車尾水源地（米子市車尾南2-8-1）
戸上水源地（米子市福市1047-1）
福井水源地（米子市淀江町福井404-1）
日吉津水源地（日吉津村日吉津586-1）

応援給水・復旧活動



災害時の応急対策活動を迅速かつ的確に実施できるようマニュアルの定期的な更新及び職員間で訓練をしています。

また、日本水道協会をはじめ、県内外の水道事業体との間で協定を締結し、災害時に相互の応援活動を実施しています。

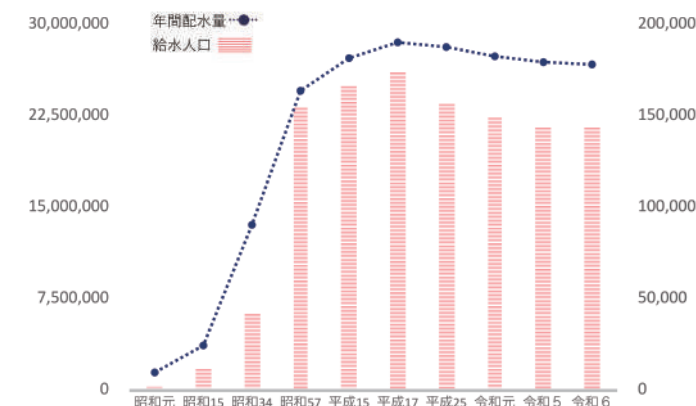
水道のあゆみ

水道がつくられる以前の米子では、主に簡易な井戸が使用されていました。しかし明治末期頃から産業の発達や人口の増加により、下水が地下に浸透し、井戸水に混じったことで飲用に適さなくなりました。さらに、日野川や法勝寺川が大雨で氾濫するたびに水が汚染され、伝染病が蔓延する状況にありました。

このため、水道を布設する声が高まり、篤志家からの寄付金などを財源として水道設置工事に着手し、1926（大正15）年4月に給水を開始しました。1915（大正4年）に鳥取市で水道が開始して以来、県内では2番目でした。

それ以後、市域の拡大や人口の増大に伴う水需要の増加に対応するため、施設や配水管網の整備を行い、皆さんに安全で安心して利用できる水道水を安定的にお届けしています。

年間配水量と給水人口の推移



米子の水道の出来事

1800年代以前	町にコレラが大流行
1922（大正11）年	水道布設調査開始
1923（大正12）年	国から布設許可
1926（大正15）年	車尾水源地、観音寺配水池完成
1947（昭和22）年	水道拡張工事開始（第1次）
1957（昭和34）年	境港市域給水開始
1973（昭和48）年	伯仙地区給水区域統合（米子市全域に上水道普及）
1982（昭和57）年	日吉津村域給水開始
1995（平成7）年	水質検査室完成
1999（平成11）年	水源かん養林購入（日南町新屋177ha）
2005（平成17）年	旧米子市と旧淀江町合併
2016（平成28）年	南部・中央配水池が完成
2025（令和7）年	水質管理棟完成

水道マメ知識

水道水とミネラルウォーターどっちがお得？



水道水の2ℓあたりの値段は0.25円です。2ℓ入りミネラルウォーターを1本100円とすると水道水だと400本買えることになります！

水分補給で熱中症対策！

わたしたちの体の約60%は水分で体温調節などの重要な役割をはたしています。

この水分は呼吸や汗、尿として排出されるため、体の水分が不足すると熱中症のトラブルにもつながります。

「渴き」を感じる前にこまめに水分補給をしましょう。

